

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス カリタス翼		
○保護者評価実施期間	2025年03月03日		2025年03月07日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数) 22
○従業者評価実施期間	2025年03月03日		2025年03月07日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	2025年03月10日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたち一人ひとりの特性に応じた支援	カリタス翼は、子どもたち一人ひとりの特性に応じた支援を大切にしており、通所している子どもたちの障害特性や発達年齢に応じて、活動の内容や環境を調整しています。文字が読める子にはスケジュールを文字で示し、文字が苦手な子にはイラストやカードを用いることで、視覚的に理解しやすくしています。また、子どもたちが「できた!」という達成感を得られるよう、得意なことに焦点を当てた活動を提供し、成功体験を積み重ねることで自己肯定感の向上を促しています。さらに、個別学習、絵画、宿題など、子どもの興味や発達段階に応じた選択肢を用意し、それぞれが自分のペースで取り組めるよう配慮しています。こうした柔軟で細やかな対応により、子どもたちが安心して自分らしく過ごせる環境づくりに努めています。	カリタス翼がさらに充実した支援を提供するためには、職員の専門性向上とPDCAサイクルの強化が重要です。具体的には、TEACCHやABAなどの外部研修の受講、児童発達支援管理責任者による内部研修の開催、外部講師によるスーパーバイズ、ケース会議での知見共有を行い、現場の対応力を高めます。また、日々の振り返りや月次ミーティングで支援内容の評価・改善を行い、子どもたち一人ひとりの特性に応じた、より適切で効果的な支援を継続させます。
2	保護者への相談支援	カリタス翼は保護者への相談支援にも力を入れており、家庭と連携しながら子どもの成長を共に支える取り組みを行っています。年2回の面談では、子どもの発達状況や課題について時間をかけて丁寧に話し合い、個別支援計画の見直しや目標設定に活かしています。また、ZOOMによるオンライン相談を導入することで、多忙な保護者でも気軽に参加でき、相談のハードルを下げています。さらに、LINEを活用した日常的なやりとりでは、些細な疑問や日常での困りごとにも素早く対応し、必要に応じて個別の支援方法を提案しています。こうした取り組みを通じて、保護者と並走しながら、子どもの成長を共に見守り、家庭と事業所が一体となって支援する体制を築いています。	今後さらに充実した保護者支援を目指し、保護者向け勉強会と交流の場の強化に取り組んでいきます。定期的にオンライン勉強会を開催し、発達支援の最新情報や家庭での具体的な対応方法を提供することで、保護者がより深い理解を得られる機会を増やしていきます。また、保護者同士の交流会も充実させ、同じ悩みや喜びを共有できる場を広げることで、保護者が安心してつながり、共に学び合える環境づくりを進めていきます。

3	地域連携	<p>カリタス翼は地域連携にも積極的に取り組み、子どもたちを支えるためのネットワークづくりを推進しています。中でも「文京区障がい児支援ネットワーク」では中心的な役割を担い、地域の支援者同士の連携強化を図っています。また、「文京区障害者自立支援協議会子ども支援専門部会」では座長を務め、地域の教育・福祉・保健医療の協働を目指して活動しています。さらに、必要に応じて利用児童の通う学校を訪問し、担任や特別支援コーディネーターと情報共有を行うことで、個別の支援の充実に努めています。加えて、学校との支援会議では、児童の特性や課題について共通理解を深め、学校と事業所が一体となって子どもを支える体制づくりに取り組んでいます。</p>	<p>今後さらに地域連携の充実を目指し、地域の関係機関との定期的な情報交換会の開催に取り組んでいきます。これにより、支援者同士の連携を強化し、より包括的な支援体制を築きます。また、学校や放課後等デイサービス事業者だけでなく、成人施設とのケース会議の頻度を増やすことで、子どもの発達状況や支援方針について綿密に情報共有し、支援の一貫性と連続性を大事にしながら個別の支援の質を高めていきます。さらに、地域イベントへの参加や共催を通じて、障害児支援への理解促進と地域の共生意識の向上にも積極的に取り組んでいきます。</p>
---	------	--	--

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	個別支援計画作成の効率化	<p>カリタス翼では、個別支援計画の作成・見直しの効率化が課題となっています。利用児童一人ひとりの特性に応じたきめ細かな計画を立てるため、情報収集や記録の整理、評価のプロセスに時間がかかることが要因です。さらに、多様な関係機関との連携や保護者との情報共有を丁寧に行っていることも、計画更新の負担を増やしています。</p>	<p>今後、個別支援計画のさらなる効率化を目指し、記録・評価の集中化と明瞭化に取り組んでいきます。日々の観察記録では計画更新時に必要な情報を迅速に抽出できる仕組みを整えます。また、短期間でのアセスメントを定期的を実施することで、子どもの変化を素早く把握し、計画見直しの負担を軽減していきます。これにより、きめ細かな計画の質を維持しながら、より効果的な支援が実現できるよう努めていきます。</p>
2	地域への情報発信	<p>地域への情報発信の課題として、発達障害や知的障害に対する地域の理解促進が十分ではないことが挙げられます。カリタス翼では、障害のある子どもたちの特性を理解し、適切な支援を提供していますが、その取り組みや成果を地域社会に広く伝える機会が限られていることが要因です。また、地域住民や関係機関への情報発信が不足していることで、障害に対する誤解や偏見が解消されにくく、共生社会への理解促進が十分に進んでいない状況があります。</p>	<p>地域の理解促進に向けた対策として、まずInstagramの活用を通じて、子どもたちの日常の様子や成功体験、イベントの様子などを写真や動画で発信し、地域に障害への理解を広げる機会を増やします。さらに、地域向け勉強会や講演会の開催により、発達障害・知的障害への正しい知識を提供し、共感の輪を広げます。また、地域イベントへの積極的な企画・参加を通じて、事業所と地域住民の交流機会を増やし、共生社会への理解促進を進めます。</p>